



# 志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和7年度2月号  
令和8年2月2日  
志木市立志木第二中学校  
志木市館 1-3-1  
TEL:048-473-2379

## 「自走する力」を信じて、任せるということ

教頭 藤井 隆光

2月は1年間の中で最も寒さが厳しい時期ですが、日差しの中には、確かに春へ向かう力が感じられます。3年生はそれぞれの進路に向けて歩みを進め、1・2年生も、次の学年での自分を意識し始める頃となりました。学校全体が、静かに次のステージへ向かって動き出している、そんな時期です。

日々、子どもの姿から多くのことを学ばせてもらっています。うまくいかず悔し涙を流す姿、思いどおりにならない現実に立ち尽くす姿、そしてそれでも前を向き、再び挑戦しようとする姿。その一つ一つが、「自分の力で生きていく」ために欠かせない過程だと感じています。

私が学級担任時代から、ずっと大切にしている考えがあります。子どもは困難を乗り越えることで達成感を得て、その達成感が笑顔となり、自信となり、やがて自分の力で走り出すということです。自走する力は、誰かに与えられるものではなく、経験の積み重ねの中で育つものです。

一方で、子どもの様子を見ていますと、気になる場面に出会うこともあります。困る前に大人が手を出し、つまづく前に道をならし、子どもが考える前に答えが示されてしまうことです。失敗しないように、悲しまないようにと願う気持ちは、とても自然で温かいものです。ただ、その優しさが重なりすぎると、「考える機会」や「立て直す経験」を持たなくなることもあります。

思いどおりにならない現実に出会うこと、注意されること、止められること。それらは決して悪い経験ではありません。むしろ、世界と折り合いをつけながら生きていくために必要な「押し返し」です。叱ることは、怒ることで否定することでもありません。人は完璧ではないという事実を、現実をとおして学んでいきます。

保護者の皆様に、少しでも共有させていただきたいことは、子どもの前を歩きすぎず、後ろから見守る距離感も、大切にすることです。転んでしまった時、すぐに抱き上げるのではなく、「どうする？」と問いかけてみる。失敗した時、「だから言ったでしょ」ではなく、「次はどうする？」と一緒に考えてみる。それは突き放すことではなく、信じて任せる応援です。

子育ては、正解のない営みです。迷いながら、悩みながら進むのが自然です。学校もまた、子どもの失敗や葛藤に寄り添いながら、共に考え、支えています。

子どもが自分の足で立ち、歩き、時に立ち止まりながらも前に進んでいけるように、温かく見守っていただけると願っています。

寒さの先に春があるように、今の経験は必ず子どもの力になります。